

21/11/5 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第45回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

写真・ビデオの撮影等は今回も禁止されました。

14:00

鈴木整備室長：はじめる
佐治所長より挨拶

佐治：出席ありがとう
全国的に発出 緊急事態宣言が解除 対面喜ぶ
3題
来年度予算編成に向けて協議中
今後各事業 部会を含めた全体会議の合意を求めたい
事業円滑に進むようお願いしたい

鈴木：出席者紹介
なお、赤羽、洲崎欠席
資料確認
議事に移る

瀬口：事務局から説明後ご議論

鈴木：名勝名古屋城二之丸庭園整備計画について
3月整備計画を参考資料

名古屋城：説明
水面、三和土
3回庭園部会ワーキング

14:15

瀬口：ご意見は

高瀬：絵図をもとに水面があったと考えている
本当に水面があったのか
北の堀から水 サイフォン何段も
枯滝だった可能性は

名古屋城：ご意見ありがとう
物理的に困難
発掘調査を踏まえて考えたい

高瀬：滝への給水が考えられる
相当何段にも分けてあげないと
装置が見つければ別 どうかという疑問

鈴木：ご指摘の件
半年前までは絵図を信用して水があったと進めてきた
3月 根拠にたるものではない
絵図だけに頼らず、ほかの形で近世に水があったか検証
今日まで明確な確証を得るにいたらなかった
その旨の資料修正
「江戸時代に水面があった」を避けた修正
滝の頂上 給水の方法がみつからない

瀬口：「明確な確証はない」
だいたいな確証はあるのか

鈴木：言葉が悪いところがあった
絵図に頼っていた 複数の絵図 着色がされている
蓋然性が高いと考えてきた
かなりの確率でそうとは考えていない

瀬口：三和土 東と西 同じかどうか
将校集会所前の岩はどこから持ってきたか

名古屋城：この場で答えられない
継続して調査したい

瀬口：東側から抜いた可能性が高い
絵図と比べて岩が少なくなっている
その部分 明治以降だとずっと私は言っている
同じか違うか

名古屋城：目視 西はモルタル
東は見られなかった
施工当時の状態を保っていると考えている

瀬口：モルタルは施工でついた可能性がある
明治大正昭和で補修可能性
それで新しいとはいえない
藤棚も支えの石 たたきが一体 近世のものと説明
今日「モルタルがあるから東より新しい」

名古屋城：西 補修の痕跡を見た
最初のものがかいつかははっきりと出せていない

村木副センター長：分析まで手が付けられていない

麓：瀬口先生の言っていることが名古屋市 理解できていないよう
東と西 たたきそのものが違うであろう
その違いを確認する必要がある
十分理解できていないから「モルタルだから新しい」
違うならどちらが古いのか

村木：成分分析を行い、近世近代の違いを調べたい
十分できていない

瀬口：ほかには
不安になってきた
東がなぜ新しいと思うか 上に兵舎が乗った
当然池の中をいじった
石もないし、レンガ基礎の下をいじっているはず
分析する必要がある
考古学の調査か？
日記では出てこない 使っている状況を書いている
水が見えたか たまたま雨が降ってたまっていた
はっきりしないところ 修正していただいた
48ページ 調査結果 風致景観の観点から検討
どういう意味か

名古屋城：発掘結果に基づくたたきを修復 水がたまる
自然に客に見ていただくことにも限らない
水位を保つため水を補給することも検討

瀬口：根拠をはっきりしないが水を入れる ということか

名古屋城：そう

瀬口：水が漏れないので水をためる
湛水するのなら降った時はたまる ないときはない
風致景観が重要なのか

名古屋城：そう

麓：そんな話をすると「違うでしょう」といいたい
水が溜まっていない可能性がある
確認できなかったとき、自然に水がたまるのはいい 枯れるのはいい
しかし今後は「風致のため」ずっと水を入れるのは論理としておかしい

成瀬：同じ意見
水があったかわからない時点で水を張るのはやめたほうがいい

瀬口：三浦委員は

三浦：おっしゃる通り

瀬口：藤井委員は

藤井：あったのならいい
「風致」でを認めたらほかにも影響がある

瀬口：小濱委員は

小濱：証拠がなければはるわけにはいかない
資料が出てくれば

瀬口：丸山委員は

丸山：たたきで底を固めてたちあげる
ためるために構造を持っている
かなり深い 1メートルくらい
普通日本庭園だと粘土を下に貼る
ここは名古屋城 わざわざたたきでたちあげる
水をためる目的
水路を考える 滝とか
今は雨が降ると自然に水がたまる
濃尾大震災 池底がやられた
池底修理すると自然と水がたまる
「風致」練れていない
藤棚の礎石がある 絵図と比較すると同じ
後世の修復はあった
池の構造からすると、水面があったかなかったかではなく、
水をためるのは确实
から池 水をためずにそのまま見せる
造園の方では考えられない
発掘の成果によって、池底は三和土
近世か近代かより、構造上水がたまらざるを得ない 理解していただきたい
瀬口座長 全般的なところ
発掘調査によって修復 理解してもらえれば
事務局によって説明 十分に伝わっていない

瀬口：構成員の意見を聞いたが名古屋市はどうか

藤井：「風致景観の観点からも」とった方がいいのでは
発掘結果では水が溜まってもいい
風致云々が入ると他の要因も

瀬口：藤井構成員

「調査成果の検証に従い、」
風致をとる
水がないということ
丸山構成員 近代、近世かを一緒にしている
近世のものなら当然湛水を可能にする
近代だったらどうするか

高橋：三和土があるから水があったんだろうという推定はおかしい
池の勾配 急
枯れ池の場合はすはまで仕上げる これでは無理
池の深さを表現したかったのでは
三和土で池の深さを表現したかったのでは

瀬口：たたき 2 つ説
・陸軍 池を深く掘ったのではないか
いままでは上だった

高橋：枯れ池

瀬口：水を入れたという記述 明治 11 年
その後しばらくは水があった可能性がある
明治の状況でいいのか、近世でいいのか
「一緒だから三和土で水があった」

麓：ためるかたまるか議論
三和土 いずれも残した方がいい
残したうえで、人工的に水を入れるより、たまったらそれでいい
枯れたらそれでいい
遺構としていずれにしても残した方がいい

瀬口：現在 雨が降ると水がたまる
晴天が続くとしみこんでたまる
湛水
修復する 水がずっとたまるように
提案 ずっと水があるように

麓：先ほどの説明「風致の観点から水をあえて入れる」おかしい
三和土は修復 水は溜まれば貯める 枯れれば枯れる

瀬口：水の補給をするか

高橋：たたきが近世か近代かは大きな問題
解明しないのか

丸山：庭園として水がたまるたまらないではなく

明らかに亀裂がはいって抜ける

池の側面 意匠的に擬岩 そういう部分と、池底に近いところは意匠がない

水がたまった上はそれなり

擬岩、擬木 三和土でできている

それより下はあまりしていない

湛水 それなりの風景を作っていたのでは

南の池でも一緒

調査がまだ 井水があった可能性が

あきらかになれば 三和土 近代近世 江戸後期のものがそのまま残ることはありえない

北園 | 本も文化文政のものはない

庭園は変化していく

もともとは文化文政の庭

時を経て変わっている

元に戻すのは 風景としてはありえない

修理しているモルタル 漆喰もあるかも

庭園は生きている 湛水あれば、擬岩擬木まで水が溜まれば素晴らしいものができる

修正 江戸期に戻るのはありえない

敷石 はめ込まれている 明らかに近代

そのまま残す

麓先生おっしゃるように、「近代だからいらない」ありえない

東に兵舎 基礎は埋め戻した

近代も大切にしたい

雨水がたまるのは自然

発掘の成果から整備を行う

麓：近世のたたきか近代のたたきか

近世のたたきがあって、近代に修理

当然池全体を見ると出てくる

表面観察しながらどちらが塗り足されるかわかる

「完全に近世のたたきをとって、近代のたたきに変えました」

観察するとわかることが多い

もう一度全体を観察して

考古学的観察でわかる そこまでの調査ができていなかったのではないかと

判断ができない

いずれにしても残すべき

補修はしても、自然にたまったり枯れたりがいいと思う

瀬口：三和土の土は共通じゃない

近世 土間のたたき 現在の成分とは違う

現在 近代になって確立された

服部さんを調べる 明治11年 防水性のたたきが使われているのではないか

近代かもしれない

近世 池にたたきを使った事例はあるのか？ほとんどない

しっくいのはある 護岸工事にしっくい

護岸工事に三和土は使っていない

水に弱い 漏水がある

常識的におかしいのではないか

明治 防水性のたたきがでてきた

だから分析して かなりのことが分かるのではないか

十分な比較がない 近世か近代かわからない

「だから全部取っちゃう」議論はない

素性をはっきりさせて

村木：麓先生に整理していただいた

来年度に堀底 側面のたたき 発掘調査を考えている

一部割ることも考えている

全体を見比べたい

瀬口先生 成分分析の件 もう一度検討したい

対応できていない

瀬口：タウリンが入っていれば近代だと思う

たたき きちんと来年度調査して、調査結果に基づいて補修を進める

とって→ない

全部は残して、三和土を補修する意見

水 ためるかどうか 湛水はありえる

深い水深にするか発掘次第

文書「風致」を消す

裏にあることが明確になった

ほかのことも議論した方がいいのかも

次回全体を通して意見をもらっては

ほかの計画もあるんでしょう

そんなに変わらないと思うが、整理して報告を
擬木、擬石
近代なものだと思ってる
近世にたたきの礎石があるのなら教えて 新発見だと思う
検討して修正して
次回再び議論
議題2

15:01

鈴木：次の全体会議までに読んで、事前に意見をいただければ：
あらためて送る
議題2 来年度事業 概要的なもの

名古屋城：説明 資料2-1
資料2-5

15:10

瀬口：来年度発掘調査について意見は

村木：池底、側面
立ち割りも含めてと説明した
まずは三和土のないところを
訂正したい

瀬口：特にないか

小濱：礎石と書いてあるが、何の礎石か
建物の礎石か 近世の遺構か

名古屋城：礎石 堀跡の礎石
絵図 北側の堀と考えている

小濱：堀の礎石か

名古屋城：はい

小濱：みんな近世の遺構か

名古屋城：はい

瀬口：〇〇の礎石と書いた方がいい

名古屋城：はい

高橋：立ち上がりは行わないということ
サンプリングは？

村木：検討したい

瀬口：ほかには
なければ次
庭園部会で検討して、全体で報告を
議題3

15：15

鈴木：附属土堀の雁木調査
来年度調査
発掘調査予定
前段として経緯 検討状況

大村：調査研究センター 学芸員
現状では土塁

鈴木：表二の門 建造物部会で議論
雁木発掘調査 埋蔵文化財
掘る部分 石垣部会での検討をお願いしたいと考えている

瀬口：ご質問ご意見を
来年度発掘調査

三浦：発掘頑張って
ほかの城で考えると、石雁木があったことは100%間違いない
正確な段数を
資料3-1 右

大正 4 年 まったく信用できない
プロポーシヨンがでたらめ
内堀を渡る土橋と石垣 図面として破綻
何も見ずにわかっていない人が書いた
大正 4 年に雁木はなかった
明治 24 年明治大地震で撤去したのではないか
整合性がある
なんのために作ったかは調べては

瀬口：ほかには
発掘調査、文献調査を進める

藤井：大正 4 年の図がダメ
今後も使われることがある
引用された根拠はあるのか
使える図面だと考えたのか
そうであれば使い方 慎重にならざるを得ない

三浦：私が答えていいか
ダメな資料も公表してほしい
ダメだとして取捨選択されると判断できない
あげることは正しい
実測を伴わない適当に作った図
名古屋城の修復 この図を参照してはだめ
資料としてあげるのはよい

村木：性格まで検討せずに出した
ご指導していただきたい

瀬口：ほかには
金城温故録
濃尾地震と関係するのなら、南一之御門 何年かわかるか
それぞれの巻はいつできたのか

村木：検討する

三浦：金城温故録 奥村さん 藩命に基づいて一生をかけてつくった

明治になってからも
明治 35 年より早く作った
実測+絵図 ごちゃませ
この図 明治維新以前に奥村さんが作った
ご番所がある 明治早々に取り壊された
原図があったのか 実測したかはわからない

瀬口：ほかには
検討を

佐治:お願い
ニ之丸庭園 指摘ありがとう
たたき お送りしてご意見いただいて次回審議
お恥ずかしいお願い
令和 4 年度
一方ニの丸計画 案のまま
行政の進め方としてどうかと
12 月 整備計画として了承いただきたい

瀬口：平沢調査官から意見を

平沢：整備計画 個別に前のステージ 修復
ニの丸全体 庭園の遺構 絵図とも照合できる
追加指定した
現物が少し埋蔵 余芳が残っている
調査成果を踏まえて追加指定 全域整備
余芳整備するのなら
最終的には 湛水のみならずほかのこと 確認いただいて
令和 3 年 3 月案 105 ページ
全体の将来姿
整備計画図と中身 整合しているか
最終的に 105 ページ 整備を目指すのでいいのか確認を

瀬口：事務局お願い

鈴木：エアコン 寒くてすみません
以上

ありがとう

15:39

このあと御蔵情報館を案内する